

令和4年度 入学者選抜試験問題

国 語

実施日時：令和4年1月18日（火） 9：00～9：50

*下記の〈注意事項〉をよく読み、監督者の指示を待ちなさい。

〈注意事項〉

— 開始前 —

1. 監督者の〈開始〉の指示があるまで、この問題冊子の中を開けない。
2. 解答用紙には、解答欄のほかに下記2つの記入欄がある。その説明と解答用紙の「注意事項」を読み、2項目の全てに記入またはマークする。
 - ・受験番号欄 上段に受験番号を記入し、下欄にマークする。
 - ・氏名欄 氏名・フリガナを記入する。
3. 解答用紙に汚れがある場合には、挙手で監督者に知らせる。
4. この表紙の受験番号欄に受験番号を記入する。

— 開始後 —

1. 問題は2ページから20ページまでの各ページに印刷されており、第1問～第2問の2題で構成されている。
開始後確認してページの落丁、乱丁、印刷不鮮明等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。
2. 解答は全て解答用紙の所定の欄へのマークによって行う。たとえば、

1

と表示のある問いに対して2と解答する場合は、次の〈例〉のように解答番号1の解答欄②をマークする。

〈例〉

1	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

3. マークする際はHBの鉛筆でマーク欄を適切にマークすること。
4. 質問等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。
5. 試験開始後の途中退室はできない。

受験番号

--	--	--	--	--

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(配点50点)

非認知的スキルの一つに、クリティカル・シンキングがある。クリティカルとは通常は批判的と訳されるが、その基本は自分も含めて、一見自明と思える前提や推論への疑問や認知バイアスへの気づきであろう。その点から、これから紹介する^A疑問や質問を基盤とした学びは、通常なら抑え込んでしまう疑問を、積極的に探求して理解を深めることができる。

疑問のタイプと学びの段階を結びつけてみる。すなわち、疑問には、最初に何かに驚いてなぜ(wonder Why)と思う段階、そしてその現象や発見が何か(What)という段階、次いでどうして(How)そうなったかという因果関係を考える段階、そしてこれらの知識に基づいてさらに仮説を立てて、もしこうだったら(What if)という発展的な疑問を持つ段階があり、この四つの疑問は経験に基づいた学びのサイクルに関わることが分かってきている。

そこで、このような疑問を抑え込む傾向に対抗するために、質問から学びを深める学びのサイクルを紹介しよう。ここでは、学びは様々な疑問から始まると考える。こうした疑問をWhy、What、How、What ifの四つに分けると、経験に基づいた学びのサイクルを理解することができる。

何かに驚き、最初の段階で持つなぜ(Why)という疑問は、これまでの経験から予想外の出来事への驚きや、なぜという疑問や気づきを表現するものである。英語では“I wonder Why”で、不思議、好奇心、驚き、興味を表す。これがきっかけになって、さらに様々な疑問が生まれてくる。驚きが最初の発見であり、疑問のスタートでもある。

次いでWhatは、未知なる驚きに対して、これは何か(What)という疑問で、自分のこれまでの知識から、その何かを理解するために発するものである。そのためには自分が何を知っていて、何を知らないかという既知と未知との境を見極め、なんとか未知を既知に結びつけようとする努力が必要である。

またそれは、因果関係や関連性を問う、いかにしてこうなるのか(How)という、さらに深い質問になる。因果性や関係性をきちんと理解することが、科学的な推論やエビデンス(根拠)に基づいた理解では大切である。この段階では、因果関係は一つに定まらないかもしれないが、それらは仮説となってさらに様々な可能性を検討することになる。

そして、多数の可能性の中から一つを選択するために、仮説とその時に何が起こるかシナリオを考えることになる。「もし……ならば何が起こ

るだろう」という疑問“*What if?*”が生まれてくる。このシナリオ思考は、観察された事象と事象を結びつける物語である。仮説を導き出そうとする疑問である。そしてここで、発散的思考が再び役割を持つてくる。もしこんな条件を与えたら、こんな風になるはずであると、仮説とある種の実験と結果の予測まで含む。その結果、何かを実際に行うことになる。そして、再びその結果を見て、スタート点の質問“*Why?*”に戻ってくる。このように質問から質問を生み出す形で学ぶと、自然と理解を深めること、いわゆる自律的に深める学びを実践することができる。その中でも、“*What if?*”では、発散的な思考が要求され、(ア)トツピョウシもない可能性に気が付いたり、自分の直感に任せて、可能性の世界を徘徊することになる。そして何かの具体的な実験や観察を促し、その結果に対する驚きなどが次の質問のサイクルのスタート点になって、疑問のサイクルはらせん状により深い学びへと発展していくことが期待される。《1》

質問を主体にした学びでは、質問の解答を求めるより、まず学び手が何を質問すべきかについて様々な可能性を提案する態度を大切に。学び手がチームになって取り組めば質問する視点が増え、それだけ多様な質問の深め方が提案される。

一つの実践例として、プロジェクト型学習は、現実に自分たちの属するコミュニティーや比較的身近な体験から問題を見出し、何らかの解決を提案する学びである。チームで取り組む場合には、活発なコミュニケーションや(甲)を通じて、問題発見から提案、最終発表までを行うことになる。必要となる知識やスキルには理系、文系、アートのすべてが関わり、提案も一つの問題に一つとは限らないので、問題解決のためにはデザインしていく能力も必要だ。その点ではデザインを基盤とした学び(デザイン型学習)とも言える。

このような疑問から自律的にどんどん深めていく学びはディーパー・ラーニング(人工知能の分野でのディープ・ラーニングとは異なる)と呼ばれる、二一世紀型の学びのタイプの一つとされている。

現実に根差した経験学習では、現場を取材したり、企業などが実際にプロジェクトの実行に支援したりすることもある。それほど大掛かりでなくても、少なくとも学び手がプロジェクトの過程で、自分で自律的に疑問を深めることで学び方を学ぶことや、未知の問題を自ら見出して問いを深めることが、(乙)には大切である。このような学びでは、教師には学び手の疑問やプロジェクトを促進する役、協働作業を(イ)エンカツに進める役、すなわちファシリテーターとしての役割が求められる。

一般的に、問題が解決せずに中途半端な状況に置かれると、簡単に分かってしまった事柄よりも記憶によく残るといふ現象が知られている。このような効果はツァイガルニク効果(Zeigarnik effect)と呼ばれ、達成できなかった疑問や中断している事柄は、自然と思い出されてきた

り、繰り返し反芻^{はんすう}して考えを巡らす機会が増えることによるとされる。《2》

*基本系ネットワークは、以前から、思考反芻、ときには強迫的な思考反芻に関わることが知られている。中途半端なところで解けずに中断している問題や疑問で解決すべき課題が気になりだすと、基本系ネットワークは脳のネットワークの*ハブとして*執行系ネットワークと行ったり来たりしながら、発散と収束を繰り返す思考をする。*気づきネットワーク、*皮質下ネットワーク、*脳幹ネットワークは、疑問の(ウ)イジや、解決までの試行錯誤、想像することを支える働きを担う。そして、X、新たなネットワーク間のつながり、すなわちパーコレーションと呼ばれる一つのまとまったネットワークの*クラスターができると、「アハ」と呼ばれる状態となり、新しい考えや解答として意識に捉えられるようになる。

*チクセントミハイによると、影響が個人のレベルを超えた創造性には三つの側面が関わるとされる。(a)、*①ドメイン領域、②フィールド、③パーソンである。一つ目のドメイン領域での創造は社会や人類の多くで共有されている記号、象徴、シンボルなどについてのもので、長年の蓄積であり、それぞれの領域における特有の文化を形成する。創造性の発揮されるドメイン領域としては、科学、技術、人文科学、アートなどの分野が想定される。

科学は、数学、物理、生命科学等、専門分野が分かれ、それぞれにディシプリン(規律)があり、細分化が進んでいる。このような各分野での創造性には高度な専門性が求められる。そうであれば、細分化した専門のドメインを決めて、一切の労務から解放されて、求められる専門にだけに特化した学びをすれば理想的な学びができるのであろうか。《3》

同じく創造性が問われる分野にアートの世界がある。専門職としての芸術もあるが、より広い意味で用いるアートは、一つの客観的な真理を求めて活動する科学とは異なり、人が創り出す活動を広く含み、自由でのびのびと自己表現することが特徴であろう。パフォーマンスアート(舞台芸術)であれば、音楽の演奏あるいは演技はその場で一度きりのもので、即座に聴衆からのフィードバックがあり、リアルタイムに進行する。パフォーマンスの臨場感と、観客との場の共有や、直接相手と関わること、すなわちエンゲージメントがカギとなる。一方で多くの科学では、活動の現場と公共の場での発表や評価には時間的にずれがあることが標準である。このように、アートの世界と科学、技術などの世界では、異なる点が多い。こうした違いは創造性に関してどのような関係があるのだろうか。

科学者には芸術的な活動でも有名である例が少なくない。相対性理論で有名なアインシュタインは、趣味はヴァイオリンで、公の場でもしば

しば演奏した。(b)物理学者のリチャード・P・ファインマンもボンゴと呼ばれる打楽器の演奏をしばしば披露している。著名な科学者は、アートやパフォーマンスに関しても、単に興味という以上に、深く関わっていることが多い。

ノーベル賞を受賞した科学者と一般の科学者との間で、アートやいわゆる文系の能力との関わり方を比較した興味深い研究がある。この研究では美術、工芸、音楽、文芸の分野を副業や趣味としてどの程度行っているか調べて統計をとった。一般の科学者に対するノーベル賞受賞科学者の関与の比率を検討すると、音楽では二倍、美術は七倍、工芸は七・五倍、文筆は一二倍であった。驚くべきはパフォーマンスアートで、ノーベル賞受賞者は一般の科学者より二二倍も高かった。全体としては、一般の科学者に比べてノーベル賞を受賞した科学者は実際に副業としてアートでも活動する人が多い。単に(エ)カンショウすることが好きというレベルではなく、芸術活動に深く関わっていることが良く分かる。

それでは、なぜノーベル賞を受賞した科学者に副業として美術、音楽、文芸等の分野でも活躍している人が多いのか？一つの説明としては、もともとある専門で人並み以上の能力を持っていたので、他のもう一つの専門としてたまたまアートの分野でも活躍したり、深く関わったという可能性である。(c)、一方で、アートでは平均的な発想から逸脱してもよい自由で発散的な思考で、偶発的なエピソードから構成された一連の物語を構築し、意味づけを試み、例外的なものや通常のものに橋渡しをする態度が育てられる。パフォーマンスアートで、コミュニケーション能力、コラボレーション能力も含めて、このような専門によらない非認知的スキルが鍛えられた結果が、専門性の中での独創性につながった可能性も大いに考えられる。《4》

実際にこれは科学の分野にとどまらず、起業家として大きな成功をしている人に関する調査でも、アートへの(オ)ゾウケイが深いという同様の傾向がある。いずれにしてもアートの持つ発散的思考すなわちマインド・ワンダリングと特定分野の収束的思考マインド・フォーカシングの両方をこなす^B多重思考が創造性を促すと考えられる。《5》

(虫明元『学ぶ脳——ぼんやりこそ意味がある』より)

〔注〕 基本系ネットワーク・執行系ネットワーク・気づきネットワーク・皮質下ネットワーク・脳幹ネットワーク

……安静時の脳の神経活動を筆者が5つに分類したものの呼称。基本系ネットワークはメンタライズする（心に描く）ことで自分を空間的に定位する。執行系ネットワークは論理思考と注意の制御に参与する。気づきネットワークは身体内部の環境に呼応し情動を司る。（つかさど）皮質下ネットワークは記憶に参与する。脳幹ネットワーク（＝感覚運動ネットワーク）は他者を含む身体外部の環境に呼応する。

ハブ・クラスター……脳の中の膨大な神経はつながっていて、相互に情報を共有し合う状態にあるが、その神経の集合が一定の規模に達したものをクラスター、クラスターの中で中心的な存在をハブと、それぞれ呼ぶ。

チクセントミハイ……アメリカの心理学者（一九三四年～）。

①ドメイン領域、②フィールド、③パーソン……①領域 (domain) は文化、②場 (field) は社会、③個人 (individual) と言い換えられる。

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナの部分に漢字に直す場合、最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 、(イ) 、(ウ) 、(エ) 、(オ)

(配点 各2点)

(ア)	トツピョウシ	①	表	②	票	③	拍	④	兵	⑤	平
(イ)	エンカツ	①	滑	②	渴	③	割	④	括	⑤	轄
(ウ)	イジ	①	尉	②	彙	③	遺	④	緯	⑤	維
(エ)	カンシヨウ	①	感	②	鑑	③	環	④	飲	⑤	艦
(オ)	ゾウケイ	①	競	②	慶	③	稽	④	詣	⑤	憩

問二 本文中の(a)～(c)に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。解答番号は(a) 、(b) 、(c)

(配点 各2点)

- ① しかし
- ② すなわち
- ③ だから
- ④ なぜなら
- ⑤ また

問三 空欄（甲）、（乙）に入るものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は（甲）

（乙）10

（配点 各4点）

（甲）

- ① イニシアチブ
- ② ガバナンス
- ③ コミットメント
- ④ コラボレーション
- ⑤ ポテンシャル

（乙）

- ① 創造性の育成
- ② 効果的な学習
- ③ 人格の陶冶どうや
- ④ 義務教育の課程
- ⑤ 数理的な思考

問四 空欄Xに入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

11

（配点 4点）

- ① その順序を逆転して
- ② その試練に耐えて
- ③ その成果から独立して
- ④ その制約を超えて
- ⑤ その過程の中で

問五 次の一文は、本文中の《1》～《5》のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

12

(配点 5点)

これに従えば、いったんプロジェクトに着手すると、中途半端にせずに達成するまでやり遂げたいと、自然に思うはずということになるのだが、どうであろうか。

- ① 《1》 ② 《2》 ③ 《3》 ④ 《4》 ⑤ 《5》

問六 傍線部A「疑問や質問を基盤とした学び」とあるが、その内容に合わないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

13

(配点 5点)

- ① これまでの経験からは予想外の出来事への驚きやなぜという気づきが、あらゆる疑問や質問のスタートになる。
② 未知なる驚きは自分のこれまでの知識の数や量に左右されるため、未知の領域が広いほうが驚きは新鮮になる。
③ 科学的な推論やエビデンス(根拠)に基づいた理解では、因果性や関係性を考察することが必要になる。
④ 観察された事象と事象を結びつける物語であるシナリオ思考は、フィードバックループを形成する。
⑤ 質問を主体にした学びでは、何を質問するべきかについて様々な可能性を提案する態度が求められる。

問七 傍線部B「多重思考が創造性を促す」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

14

(配点 6点)

- ① 発散的思考に習熟することが、収束的思考の効率を高めたり成果を大きくしたりする。
- ② 収束的思考に習熟することが、発散的思考の効率を高めたり成果を大きくしたりする。
- ③ 発散的思考と収束的思考は、同時並行的に、そして、相補的に、思考力を深める。
- ④ 発散的思考と収束的思考は、反比例を繰り返しながら、思考力全体を底上げする。
- ⑤ 発散的思考と収束的思考が混合してさらに高次の思考を形成して、知能は高まる。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

15

(配点 6点)

- ① クリテイカル・シンキングにおけるクリテイカルは、通常は抑え込んでしまうかもしれない一見自明と思える前提や推論への疑問や認知バイアスへの気づきを、自分以外を対象として、積極的に探求する態度を意味する。
- ② デザイン型学習では、必要となる知識やスキルには理系、文系、アートのすべてが関わり、また、提案は一つの問題に一つとは限らず、原則として二つ以上の提案を要求するので、プロジェクト型学習と呼ばれることがある。
- ③ 人工知能の分野におけるディープ・ラーニングを発達させて、一つの疑問を自律的にどんどん深めていく学びが開発され、これは二一世紀型の学びのタイプの一つとしてディーパー・ラーニングと呼ばれる。
- ④ 科学は専門分野ごとにディシプリン（規律）があつて細分化が進み、各分野に高度な専門性が求められるからといって、その専門に特化した学びが必ずしも理想的な学びにならないことに注意するべきである。
- ⑤ パフォーマンスアート（舞台芸術）に熟達した科学者は、ノーベル賞に相当する業績を上げられる可能性が、統計上、非常に高いので、科学教育にパフォーマンスアートを導入することが検討され始めている。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(配点50点)

例えば、二〇〇一年に開館したベルリン・ユダヤ博物館。有名な「ホロコースト・タワー」の入り口の黒く重い鉄の扉は、まるで強制収容所のそれを想起させる。タワーの内部は真っ暗。ただ、一〇メートルほどの高さにある天井近のスリットから微かな外光が差し込むため、目が慣れてくると、内部がさほど広くなく空洞であること、床面や壁が多少傾いていることなどに気付く。

- a 学芸員によると、そこがまさに博物館の狙いで、特定の解釈やイメージを押し付けるのではなく、来訪者それぞれに意味づけを委ねるようデザインしたとのこと。
- b 一人だとやや心細くなる。
- c とはいえ、エルサレムやワシントンDCのホロコースト記念館で目にしたような強烈なオブジェ——ユダヤ人などが送り込まれたガス室や犠牲者の頭蓋骨など——が展示されているわけではない。
- d 博物館側はいわば白色のキャンバスを用意しただけというわけだ。
- e ただひたすら静寂と無が支配する空間である。

もつとも、ミュージアムという装置に展示されている以上、実はすでに「白色」に塗られているとも言える。街中の広場や道路や公園といった日常の公共空間にオブジェを設置する「パブリック・アート」は、そうしたミュージアムゆえの(ア)ジュバクを取り払おうとする試みの一つである。《1》

芸術作品の多くは商品としての価値も有するが、そもそも経済的価値の源泉は(A)差異に付加価値の創出にある。市場で取引される商品やサービスに関して言えば、何が付加価値かはそれらの成熟度、時代や経済状況などによって大きく変わる。例えば、パソコンやテレビ、携帯電話のように機能的価値が重んじられる商品もあれば、高級車や高級腕時計、ブランドファッションのように趣味やセンスといった意味的価値が重んじられる商品もある。機能的価値が重視される時代や地域もあれば、意味的価値が重視される時代や地域もある。もちろん、商品やサービスの

みならず、それらに関する情報やイメージ、伝達手法なども重要だ。様々な要素の絡み合いのなかで、いかに差異の境界線を保守ないし革新、すなわちマネージメントしてゆくかが市場における経済活動の鍵となる。

思想家フレデリック・ジェイムソンは、個人の特性や属性までもが差異として商品化され、従来の文化的な権威や規範を揺さぶっている点を現代（後期資本主義）の特徴として挙げた。近年、日本のエンターテインメント産業において、「プロ性」よりも「アマチュア（素人）性」が付加価値として人気を博している点とも関係がありそうだ。「民族性」や「民族文化」にちなんだ食、衣服、雑貨、音楽、メディア、観光など、エスニック・マーケティングの（イ）リユウセイについても然りだ。《2》

差異の境界線をめぐるマネージメントは政治の肝きまでもある。

水俣病を描いた『苦海浄土』みなまびょう（一九六九年）の著者で、水俣病患者の支援活動に携わってきた石牟礼道子いしむれみちこさんが、以前、私との対談の中で話してくれた逸話を思い出す。

患者さんたちは極限状態なのに、*チツソへは「お願いに行く」と言っていました。でも、会社側は金を要求しに来たという扱いですから。

患者さんたちは東京の社長さんに会いたいと言いました。一番偉い人なら、自分たちの苦しみをわかってくれるはずだと。「大変でしたね、やっとわかせてもらいました」と言ってもらいたかったです。そうすれば救われる。でも、それはなかったですね『朝日新聞』二〇〇八年一月八日付）。

水俣病患者とチツソ幹部の間の決定的な意識の裂け目を象徴する話だが、政治をめぐる議論で最も難しい問題の一つは、こうした裂け目とどう向き合ってゆくかであろう。「相手の身になって考える」ことの難しさは、家族関係や友人関係を含め、人間関係全般に当てはまることだが、哲学者のマイケル・サンデルが指摘するように「小さな連帯」を超えたところで「他者」への想像力や共感を働かせるのは容易ではない。

「国民」という意識を基にした「国民国家」という「想像の共同体」も私たちの社会を構成する「連帯」の一つである。しかし、そのなかにあっても意識の裂け目は至るところに存在する。例えば、原子力発電所、基地、ごみ焼却場、し尿処理施設、産業廃棄物処理施設、リサイクル施設、埋め立て処分場、精神病院、葬儀・火葬場など、いわゆる「迷惑施設」の建設をめぐるNIMBY症候群（“Not-In-My-Back-Yard”＝公共の

ために必要なことは理解するが、自分の裏庭で行なわれることは反対すること）はその典型であろう。あるいは、失業者や障害者、病人などの社会的弱者、あるいは移民や移住者、難民など、いわゆる「社会的包摂」をめぐる問題についても^B然り。個々人の想像力や共感の及ぶ範囲には限界があり、かつ、それぞれの境界線には乖離がある。その現実を前に、いかなる状態を「正義」と見なし、いかに折り合いをつけるか。《3》
外交や国際関係においては、世界の過去・現在・未来をどう認識し、そのうえで自らの望む世界の実現のために、どう現状規定し、課題設定し、規範形成してゆくかが問われることになる。

例えば、「東アジアサミット」に象徴されるような、地域協力の単位としての「東アジア」が誕生したのは一九九〇年代になってからである。ここで言う「地域」とは、「人種」や「民族」と同様、客観的指標によって定義できるものではなく、その時代の政治や経済の力学を反映した、恣意的な境界区分に過ぎない。しかし、その言説が「現実」の国際関係を構築してゆく。アジア重視戦略を進める米国が近年、「アジア太平洋」という呼称を多用するのはそのためである。

ときとして国際儀礼（プロトコール）も重要な道具となる。《4》

一九七二年のリチャード・ニクソン米大統領の電撃訪中の翌年、文化使節としてフィラデルフィア管弦楽団が米国のオーケストラとしては初の中国公演を行なった。その際、直前になって*毛沢東の妻・江青から演奏曲目をベートーベン^{ベートーベン}の交響曲第五番「運命」から第六番「田園」に変更するよう要請があった。指揮者ユージン・オーマンディは当惑したが、中国側は共産革命の象徴とも言うべき農村のイメージを反映することにこだわった。公演が実現したこと自体は西洋文化の受容に肯定的な*周恩来ら「実務派」の主張が通りつつあることを示していたが、この一件は西洋文化をブルジョア趣味と批判する*「文革派」との政治抗争が続いていることを示唆することになった。（a）米国側は江青が好んだ「黄河鋼琴協奏曲（イエロー・リバー・コンチェルト）」をあらかじめ用意していたが、そこには米中接近には文革派も関与していることを世界に示す狙いがあったとされる。

一九九九年にイランのモハンマド・ハタミ大統領のフランス訪問が延期された理由は、フランス大統領主催の晩餐会でのワインが原因だった。長年のエリゼ宮のしきたりに沿って饗宴の席にワインをテーブルに置くことにこだわったフランス。かたや、ネクタイ同様、ワインを西洋文化の象徴としてウキヒする姿勢を内外にアピールしたかったイラン。どちらも自国の面子を失うわけにはいかなかった（翌年、ハタミ大統領が日本を訪れた際、日本は賓客の宗教的理由を尊重し、お酒は供しなかった）。

(a)、相手国の重要度によって晩餐会の内容に差をつけることは外交の常だが、日本の皇室は利害が衝突する国であろうと小さな国であろうと、あくまで平等にもてなすことを旨とする世界的にも希有な存在である。

リベラル・アーツとはもともと「人間を解放する自由学芸」という意味で、非奴隷たる自由人としての教養が奨励されたギリシャ・ローマ時代に X。より直接的には、中世以降、ヨーロッパの大学制度において重視された自由七科（文法、修辞学、論理学、算数、幾何、天文、音楽）の伝統を引き継ぐものだが、その要諦は宗教的権威や国家的権力、あるいは伝統・因習・偏見から「精神と知性」を解放することにある。つまり、私たちの他者認識や世界認識の境界線を押し広げることだ。《5》

例えば、国文学者・大津雄一の『「平家物語」の再誕』（NHKブックス、二〇一三年）は、『平家物語』が武士道を描いた叙事詩であり、平清盛が英雄であるという通説に異を唱える。著者曰く、「武士道」も「叙事詩」も「英雄」も中世の日本には存在しなかった概念であり、明治以降の近代化の流れのなか、西洋文学の基準を日本文学に当てはめる形で創り出された評価に過ぎないという。帝国議会が創設され、教育勅語が發布された一八九〇年代以降の保守的風潮の下、国内初の古典文学全集が編まれ、それによって『平家物語』に対する世間一般の認知度も増した。そして、やがて軍国主義が高まるなか、「もののふ」の心を伝える文学の一面が強調され、「古典」としての地位が確立していったという分析は興味深い。

文学が「国民国家」という擬制を支える物語のなかに組み込まれた過程や力学に着目する視点は、米独立革命期の植民地における多言語状況を検証した英文学者マーク・シエルのそれとも重なる。

*アングロフォンのアメリカ人たちによる、独立したアメリカ語という Y、独特の一言語使用の、言語的に記憶喪失な国民文学と文化が、アメリカに、壮観なほど発展したのである。(b)、文学においてもまたアメリカの政治においても、一般に公用語という問題が、成功裡に、現われてこなかったからである。(中略)そういうわけで、かつては多言語を使用し、数千の二言語使用の学校を有していた国が、かろうじて、二〇世紀になり単一言語使用になったのである(マーク・シエル「アメリカにおけるバベルの塔——もしくは、合衆国における言語の多様性の政治力学」荒木正純訳、『みすず』一九九五年一月号)。

こうした認識をもとに、彼はハーバード大学の同僚ワナー・ソローズと一九九四年に「ロングフェロー・インステイテュート」を創設、米国への初期移民が母語で生活体験を記した文芸作品を発掘し、「英語」以外の言語空間に描かれた「米文学」の豊かさを探究している。^c日本への移民が日本語以外の言語で著した文芸作品が「日本文学」と見なされる日は来るのだろうか。

(渡辺靖『文化』を捉え直す——カルチュラル・セキュリティの発想』より)

〔注〕チツソ……チツソ株式会社。メチル水銀化合物(有機水銀)による中毒性中枢神経系疾患という公害を熊本県水俣湾に引き起こした加害企業。

毛沢東の妻・江青……中国共産党の最高指導者として中国革命を勝利に導いて中華人民共和国を建国した中国の革命家である毛沢東の妻。

周恩来ら「実務派」／「文革派」……中国共産党内で政治路線が対立していた二つのグループ。
アングロフォン……母語や出自が何であれ、普段の生活では英語を話す人々。

問一 傍線部(ア)～(ウ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア)

16

(イ) 17

(ウ) 18

(配点 各2点)

(ア) ジュバク

- ① 余計な発言をしてジジョウジバクの窮地に陥る。
- ② バクシンを務めた同郷の人物の伝記を読む。
- ③ 放射線のヒバク量が人体に及ぼす影響を調べる。
- ④ 入試を目前に控えてバクゼンとした不安に苛まれる。
- ⑤ 二糖類のバクガトウは天然高分子化合物に分類される。

(イ) リユウセイ

- ① 原子核に微細なリユウシを衝突させた。
- ② ノウリユウサンを注意深く希釈した。
- ③ 海底がリユウキして小さな島ができた。
- ④ 回答をホリユウして暫く検討した。
- ⑤ 鳴り物入りの登場がリユウトウダビに終わった。

(ウ) キヒ

- ① 祖母のサンシユウキを弔う。
- ② 著しく名譽をキソンする。
- ③ キシユクシヤで生活する。
- ④ 成否のブンキ点に立つ。
- ⑤ キチクの所業だと非難する。

- 問二 本文中の（ a ）、（ b ）に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。なお二つの（ a ）には同一の語が入る。解答番号は（ a ）、（ b ）
- （配点 各2点）
- ① けれども
 - ② さらに
 - ③ そこで
 - ④ ちなみに
 - ⑤ なぜなら

問三 空欄 に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

- ① 古典として完成する
- ② 理念的な源流を持つ
- ③ 芸術が宗教から分離する
- ④ 最高度の発達を遂げる
- ⑤ 芸術と技術が融合する

（配点 4点）

問四 空欄 に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

- ① 英国からの度重なる攻撃にさらされ
- ② 世界的な公用語が言語学者に構想され
- ③ 偉大な文学者の努力の結晶が生み出され
- ④ さまざまな虚構的な理想化に支えられ
- ⑤ 人類史上最も優れた言語として認定され

（配点 4点）

問五 次の一文は、本文中の《1》～《5》のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 23

学術活動の多くがこれに該当する。

(配点) 5点

- ① 《1》
- ② 《2》
- ③ 《3》
- ④ 《4》
- ⑤ 《5》

問六 本文 24 の中の a～e の各文を意味が通るように並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

(配点) 5点

- ① a—d—e—b—c
- ② b—c—e—d—a
- ③ b—e—c—d—a
- ④ c—d—e—b—a
- ⑤ c—b—e—d—a

問七 傍線部A「差異」とあるが、その内容に合わないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

25

(配点 5点)

① 市場で取引される商品やサービスにおいて、何に価値が認められるかは、商品やサービスの成熟度、時代や経済状況などから決定される。

② パソコンやテレビなどは機能的価値が重んじられる商品であり、高級車や高級腕時計などは意味的価値が重んじられる商品である。

③ 時代や地域ごとに、機能的価値が重視される場合も意味的価値が重視される場合もあり、何が重視されるかは流動的である。

④ 商品やサービスに関する情報やイメージ、伝達手法などは、一般に、機能的価値よりも意味的価値に大きな影響を及ぼす。

⑤ 現代では、個人の特性や属性までも差異として商品化され、従来の文化的な権威や規範を揺さぶっていると指摘する論客もいる。

問八 傍線部B「然り」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

26

(配点 6点)

① 家族関係や友人関係を含めた人間関係全般において、「相手の身になって考える」ことは、現代の人々にとって容易ではない。

② 無教養で、想像力や共感の及ぶ範囲が狭い人々が、いわゆる「迷惑施設」の建設をめぐってNIMBY症候群を発症する。

③ 私たちの社会を構成する「連帯」の一つである「国民国家」という「想像の共同体」に、人々は意識の裂け目を見出している。

④ 「他者」への想像力や共感を働かせられない人々は、彼らが望まない現実とどのようにしても折り合うことができない。

⑤ 社会に必要な施策であっても、それを実際に私生活に反映させる段になると、極めて消極的になる人々は少なくない。

問九 傍線部C「日本への移民が日本語以外の言語で著した文芸作品が『日本文学』と見なされる日は来るのだろうか」とあるが、この文脈における「日本文学」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 27

(配点 5点)

- ① 日本への移民が、日本語ではない母語を含む外国語で、日本での生活体験を記したもの。
- ② 日本への移民が、日本語ではない母語で、日本へ渡る前の母国での生活体験を記したもの。
- ③ 日本への移民が、日本語を含むあらゆる言語で、母国と日本の文学を比較して考察したもの。
- ④ 日本への移民が、日本語ではない母語を含む外国語で、母国と日本の文学を比較して考察したもの。
- ⑤ 日本への移民が、日本語を除いたあらゆる言語で、日本文学に影響されて日本国内で創作したもの。

問十 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 28

(配点 6点)

- ① フレデリック・ジエイムソンの影響を受けて、近年、日本のエンターテインメント産業においては、「プロ性」よりも「アマチュア(素人)性」が人気を博する付加価値になりつつある。
- ② 公害被害者の水俣病患者と公害加害者の企業幹部の間にある決定的な意識の裂け目も、同じ日本語を話す日本人同士であれば、誠意ある対話を繰り返すことによって克服することができる。
- ③ 客観的指標によって定義できず、その時代の政治や経済の力学を反映した恣意的な境界区分に過ぎない「地域」のような曖昧な言説が、「現実」の国際関係を構築することがある。
- ④ 西洋諸国と非西洋諸国は、往々にして、西洋の音楽や服装、食文化を道具として、それぞれの政治的思惑を顕示するが、日本の外交戦略はそうしたことには無縁である。
- ⑤ 「武士道」も「叙事詩」も「英雄」も、中世の日本には存在しなかった概念で、明治以降、西洋文学の基準を日本文学に当てはめて、軍部と教育機関が協同で創り出したものである。

国語A【解答】

受験校		受験番号		フリガナ	
				氏名	

/ 100

第1問 (配点50点)

	問一				
	1	2	3	4	5
解答	③	①	⑤	②	④
配点	2	2	2	2	2

	問二			問三	
	6	7	8	9	10
解答	②	⑤	①	④	①
配点	2	2	2	4	4

	問四	問五	問六	問七	問八
	11	12	13	14	15
解答	⑤	②	②	①	④
配点	4	5	5	6	6

第2問 (配点50点)

	問一			問二	
	16	17	18	19	20
解答	①	③	①	④	⑤
配点	2	2	2	2	2

	問三	問四	問五	問六	問七
	21	22	23	24	25
解答	②	④	⑤	②	④
配点	4	4	5	5	5

	問八	問九	問十
	26	27	28
解答	⑤	①	③
配点	6	5	6